

秋田県能代市におけるオオトラフトンボの記録

A record of *Epitheca bimaculata sibirica* from Noshiro City, Akita Prefecture, Japan

藤中 由美*
Yumi Fujinaka

キーワード：*Epitheca bimaculata sibirica*, オオトラフトンボ, 能代市, 初記録
key words : *Epitheca bimaculata sibirica*, Noshiro City, first record

Epitheca bimaculata sibirica Selys, 1887 オオトラフトンボはエゾトンボ科のトンボで、日本では北海道および新潟県・栃木県・群馬県・山梨県・長野県以北の本州に分布し、産地は著しく局地的であることが知られている(杉村ほか, 1999)。

秋田県版レッドデータブック 2020 動物 II (秋田県, 2020) では、本種は情報不足 (Data Deficient : DD) として扱われている。県内分布として、北秋田市, 秋田市, にかほ市, 仙北市, 大仙市, 横手市, 湯沢市, 東成瀬村が挙げられているが、具体的なデータは示されていない。これまでの記録を整理すると、採集に基づく本種の確実な分布記録は、横手市(成田, 1992; 小田嶋・猿橋, 1999; 小田嶋, 2000), 湯沢市(成田, 1992), にかほ市(高橋, 1992)に限られる。また、高橋(1994)は北秋田市での目撃を報告している。さらに、環境省による第6回自然環境保全基礎調査では、大館地域および鷹巣地域で幼虫の採集が報告されている(環境省, 2005)。

2024年, 能代市内の人工池において採集され、羽化前に死亡したトンボ幼虫, および同地点で採集・飼育された幼虫に由来する羽化殻が当館に寄付された。羽化の様子は採集者により撮影記録として残されており、オオトラフトンボであることが確認できる(図1b)。

翌2025年も同地点で採集・飼育したトンボ幼虫からオオトラフトンボが羽化したとして、羽化成虫と羽化殻が寄付された。これらの寄付資料に基づき、これまで本種の記録のなかった能代市における確実な採集記録として報告する。

成虫の同定はいずれも杉村ほか(1999)に依った。2024年に採集・飼育された羽化前死亡幼虫

については、腹部第9節側棘の大きさからオオトラフトンボであることが示唆されるが、成虫による確認が得られないため、本稿では参考資料として扱う。

標本データ

Epitheca bimaculata sibirica Selys, 1887

オオトラフトンボ

羽化殻1個体(図1a),

能代市能代町字日和山下風の松原,

31.III.2024, 本間大陽 採集(幼虫), 飼育下で同個体から24.IV.2024に羽化(♂, 撮影記録のみ, 図1b), AKPM-I-52328.

1♂(図2a, b),

能代市能代町字日和山下風の松原,

5.IV.2025, 本間大陽 採集(幼虫),

飼育下で28.IV.2025に羽化, AKPM-I-52330.

1♂(図3a, b),

同上, 6.IV.2025, 本間大陽 採集(幼虫),

飼育下で30.IV.2025に羽化, AKPM-I-52332.

参考資料

エゾトンボ科 (*Corduliidae*) sp.

羽化前死亡幼虫1個体(図4),

能代市能代町字日和山下風の松原,

31.III.2024, 本間大陽 採集(幼虫), AKPM-I-52329.

採集地の環境

風の松原は能代市の海岸沿いに南北約14km, 東西約1kmにわたって広がる, 日本最大規模のク

ロマツ林である。採集地はいずれも、この風の松原内に造成された人工池である。

採集者の本間大陽君（能代市在住、小学5年生）によると、池底に形成された落ち葉が混在する泥質堆積物を、タモ網を用いた底泥掬いによりトンボ幼虫を採集したとのことである。

筆者は2025年5月に現地を確認した。採集地はマツ林に囲まれているものの、人工池の周囲は樹木による被覆が少なく、水面は明るく開放的で、多数のアメンボ類を確認した。

杉村ほか（1999）によれば、本種は主として寒冷地の湿原や山岳地域の、樹林におおわれた挺水植物や浮葉植物が茂る深く大きな池沼に生息するとされる。しかし、本人工池は水深が浅く、池底付近の両生類幼生を目視できるほどであった。また、池内には挺水植物および浮葉植物は認められなかった（図5）。

本地点はオオトラフトンボの生息環境として興味深く、今後は継続的なモニタリングに加え、同様の環境条件を有する地点での調査が望まれる。

謝辞

オオトラフトンボの採集情報の提供ならびに標本の寄付にご協力いただいた本間大陽君と母親の本間千恵子氏に心より感謝申し上げます。

また、本稿を記すにあたり、多くの有益な助言を賜った梅津一史氏に深く感謝申し上げます。

参考文献

- 秋田県, 2020. 秋田県の絶滅のおそれのある野生生物 秋田県版レッドデータブック2020 動物II [哺乳類・昆虫類]. 秋田県生活環境部自然保護課編, 秋田.
- 環境省, 2005. 第6回自然環境保全基礎調査 生物多様性調査 種の多様性調査(秋田県) 報告書. 環境省自然環境局生物多様性センター, 山梨.
- 成田弘, 1992. 栗駒山西部山麓で採集されたトンボ類. 秋田自然史研究, 28: 6-10.
- 小田嶋順治・猿橋晃, 1999. 横手のトンボ. 秋田自然史研究, 38: 19-21.
- 小田嶋順治, 2000. 続・横手のトンボ. 秋田自然史研究, 40: 44-46.
- 杉村光俊・石田昇三・小島圭三・石田勝義・青木典司,

1999. 原色日本トンボ幼虫・成虫大図鑑. 北海道大学出版会, 札幌.

高橋雅彌, 1992. 秋田県の蜻蛉III. 秋田自然史研究, 28: 11-24.

高橋雅彌, 1994. 秋田県の蜻蛉V. 秋田自然史研究, 30: 1-6.



図 1a. AKPM-I-52328

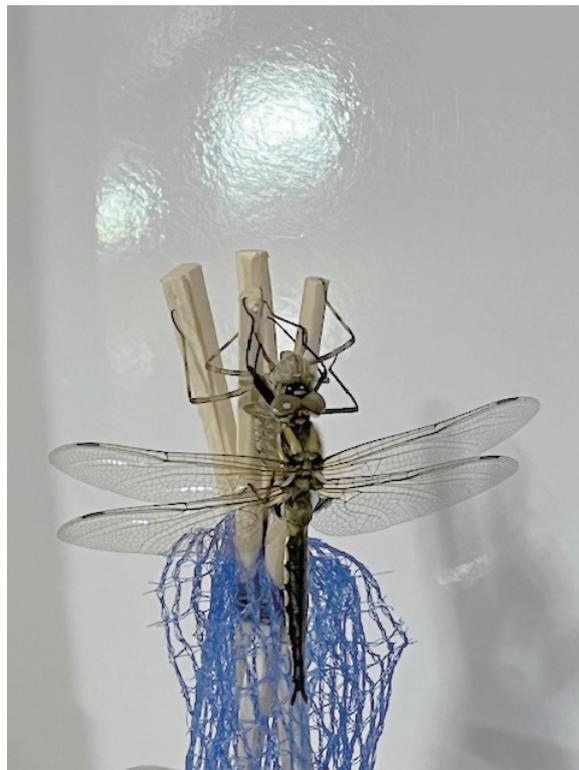


図 1b. 同個体から羽化した♂



a



b

図 2. AKPM-I-52330 ♂ : a, 背面 b, 側面

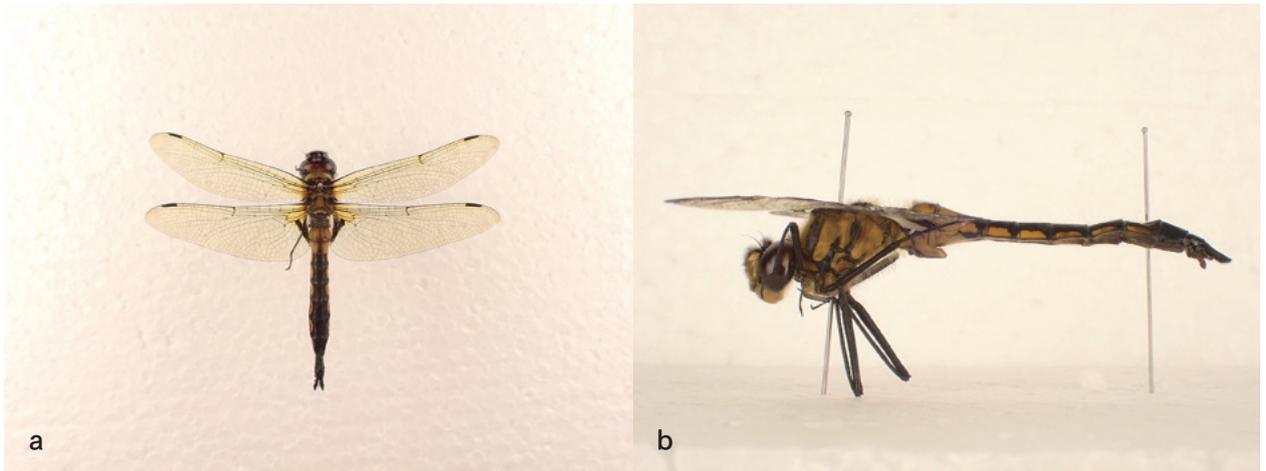


図3. AKPM-I-52332 ♂ : a, 背面 b, 側面



図4. AKPM-I-52329 (参考資料)



図5. 採集地の人工池 (2025年5月撮影)